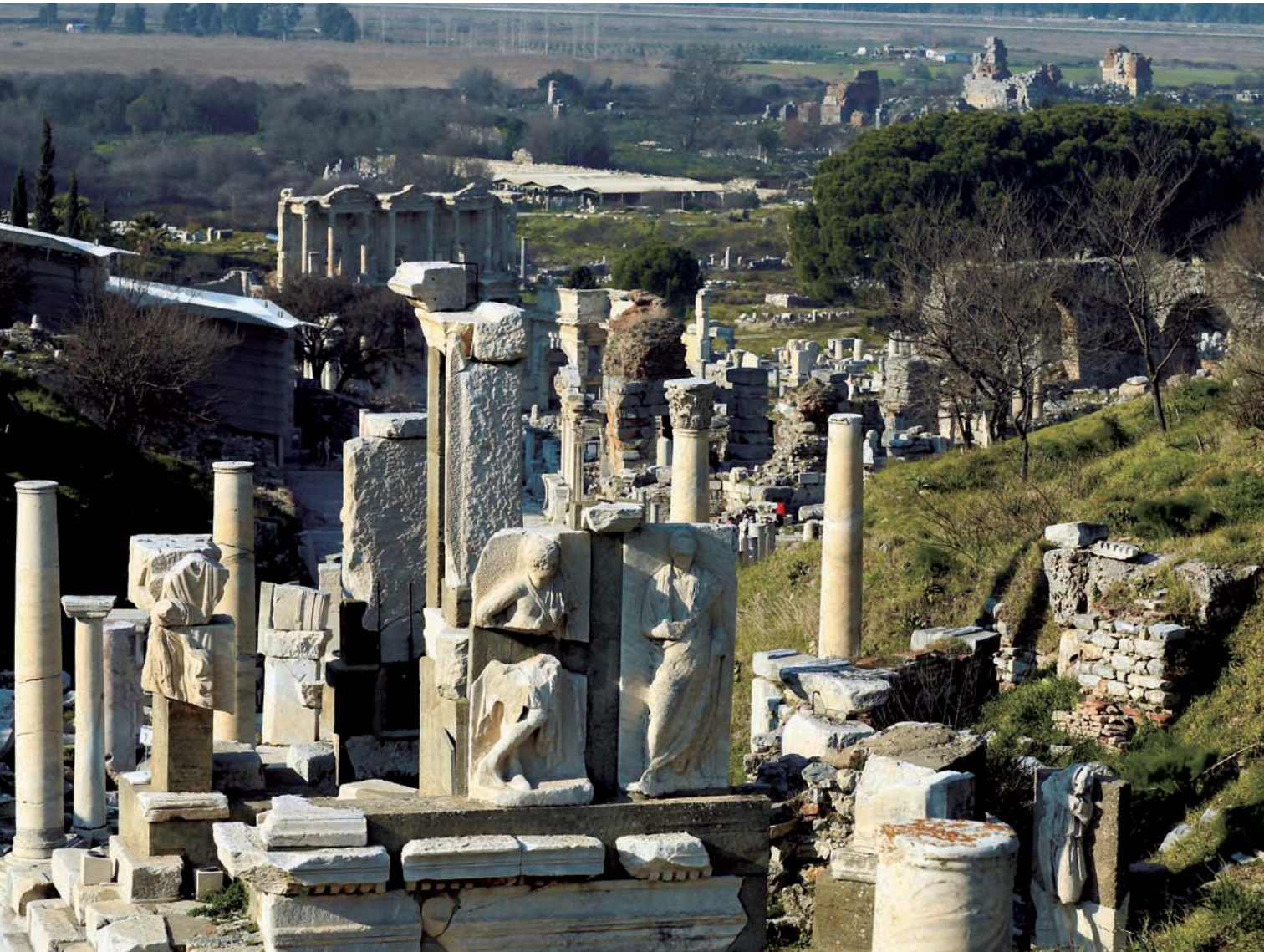
JSP ニュース

平成22年4月1日～平成22年9月30日

2010年 冬

No.69

証券コード：7942



社長メッセージ

Message from the President

代表取締役社長　**井 上　六 郎**

JSPニュース　No.69　Contents

社長メッセージ …… 01
特集 …… 03
トピックス …… 05
連結財務ハイライト …… 08
連結セグメント情報 …… 09
要約連結財務諸表 …… 11
JSPカレンダー …… 13
会社情報 …… 16
株主メモ／次回アンケート実施のお知らせ …… 17
表紙の写真 …… 18

収益向上のための施策を継続
各市場のニーズにマッチした営

株主の皆様におかれましては、益々ご清祥の段お慶び申し上げます。

一昨年の秋、米国サブプライム問題、リーマンショックに続いた世界的金融危機、同時不況の暗い影は、昨年後半には晴れた感がありました。

しかし、昨年末のギリシャ金融危機以降、欧州通貨・経済不安が深刻化し、米国経済も様々な重い課題を抱え低迷下にあります。

一方、我が国経済は、一時期明るさが戻った感はあったものの、昨年夏の政権交代に伴う期待感をよそに、政治不作為の中デフレ脱却からは程遠い状況にあり、加えて独歩の円高進行により、国内経済を支えるべき製造業の先行きさえ懸念されております。

今後の政府の迅速で実効がある経済建て直しを望むばかりです。

当2010年度第1、第2四半期は、この様に厳しい状況での事業活動を余儀なくされましたが、プラスチック発泡業界につきましては、日常生活に密着する製品需要により低迷する程の事はなく、異常な高気温が続いた酷暑が需要を支えた面もあり、食品包材、産業資材諸製品の出荷は概ね堅調でありました。

又、低炭素社会実現の気運と共に景気向上策として導入されたエコカー補助金、家電・住宅を対象とするエコポイント制度も販売促進効果を発揮し、関連する諸発泡製品需要を支えました。

エコカー補助金制度の打ち切りに続き、今後家電・住

的に実行し、
業活動を推し進めてまいります。

宅エコポイント制度も終了の見込みで、事業環境は厳しくなりますが、発泡製品は断熱性、軽量性且つ省資源性で低炭素社会に適う材料であることから用途拡大も期待され、需要はある程度安定的に継続するものと見ております。

当社事業に関しましては、国内では上記の如く比較的好調な需要に支えられ、海外では、特に欧米で自動車販売台数が戻り当社製品の販売増加に繋がったこと、アジアでは中国が引き続き自動車市場を主体に需要が拡大したこと、他地域でも総じて自動車、IT向け包材需要が堅調であった事から、当第2四半期累計実績は連結ベースで売上高45,764百万円（対前年比18％増、対予算比10％増）を計上致しました。

又、引き続きグループを挙げて高付加価値製品の販売に注力するとともに生産効率向上、原単位改善、諸経費軽減に努めました。

又、前述の通り、建材向け製品需要が底を打ち、国内外で自動車、家電向けに製品需要が好調であったこと、加えて原燃料価格面では当該期に若干上昇基調ではあったものの、比較的緩やかであったことも好材料となり連結営業利益は3,797百万円（対前年比75％増、対予算比84％増）となりました。

当該期を通じて円高が進行し、海外事業では売上、利益とも円換算で減少しましたが、一方では、国内原燃料の価格上昇が抑えられ相互に相殺し合う形となりました。

前年同期におきましては、欧米での自動車販売が低迷していた事から、従来収益率の高かった海外事業に代わって国内事業が収益を支えた構造でありましたが、当期は海外で事業改善が顕著で、内外の収益構造は従来型に戻りつつの感があります。

通期業績予想につきましては、当面国内外とも市場に翳りが見られ、特に国内では経済回復政策がどの程度奏効するか不透明であり、更に深刻な円高に歯止めが掛からず輸出関連諸産業の先行きが楽観できない情勢下にあります。

この様に不透明且つ厳しい環境下でありますが、これまでの収益向上施策を継続実行し、市場毎での活発な営業活動を行う事により、通期連結売上90,000百万円、通期連結経常利益6,700百万円を確保する所存です。

尚、この度の中間配当金は好調な収益状況に鑑み1株当たり15円とさせて戴きました。又、先の2009年3月期には、期末配当金として記念配当を含み1株当たり12円とさせて戴きましたが、今期は期末配当金でも前期を上回る1株当たり15円を見込み、年間配当金といたしましては1株当たり30円とさせて戴く予定です。

株主の皆様には、今後とも変わらぬご支援ご鞭撻を賜ります様お願い申し上げます。

平成22年12月

井上六郎

JSPは日本全国に生産拠点を置いております。今回は北海道・九州地区にスポットをあてて紹介いたします。
北海道地区には、札幌の北東の江別市に北海道工場が、九州地区には熊本県熊本市に九州工場があります。両工場ともに第一事業本部に属し、生活産業資材事業部と建築土木資材事業部の製品を生産しております。
それでは歴史の古い順に、九州工場から紹介いたします。

九　州　工　場

九州工場は、熊本県熊本市の北部の植木町にあります。1977年9月に九州スチレンペーパー㈱として設立され、果実などの保護材であるミラネットの九州地区におけるストックポイントとしてスタートし、翌1978年ミラネットの製造を開始しました。その後1986年4月に合併しJSPの九州工場となりました。
熊本市植木町はスイカの生産量が日本一です。元々この地域の特産はメロンでしたが生産者が激減してしまいました。操業当時はメロン向けの需要が多かったのですが、高発泡ポリエチレンをネット状に押出成型したミラネットは、緩衝性がある上に通気性も良く、他の果実などの輸送用包材にも広く使われています。
製造業として各工場の現場においては常日頃より安全操業に努めておりますが、九州工場では2006年に熊本県知事より高圧ガス製造設備優良事業所として表彰を受けております。
本年（2010年）、これまでの所有地約7,500坪に、2,500坪程を買い増し約10,000坪とし、将来への展開に備えています。社員22名に嘱託、パートの方を加え44名で日夜生産、出荷に励んでいます。

生活産業資材事業部

生活産業資材事業部関連の製品は前述のミラネットのほか、商品の緩衝材、保護材として広範囲の産業に採用いただいているミラマットやキャプロンを取り扱っています。

建築土木資材事業部

建築土木資材事業部関連の製品は、建築・住宅・冷凍分野の省エネルギー化に貢献している高性能断熱材のミラフォーム及びこれを施工会社より指示された寸法にカットしたプレカット品があります。近年プレカット品は建築現場で端材が出ない、施工日数が短くて済む等々の高い評価を頂いており、年々数量が増えています。

九州工場

北 海 道 工 場

北海道工場は、1973年札幌市に隣接する江別市に工場用地52,000m²を取得し、7年後の1980年8月、ミラフォームの生産を皮切りに操業が開始されました。本年で操業30年を迎える事になります。

現在、北海道工場は社員22名、派遣社員1名、パート1名の総勢24名で生産しています。製造業に誇りを持ち『①安全最優先　②品質・工程管理の徹底　③コスト低減の追求・強化』の3点を工場方針として掲げ、日々全員で努力を続けています。

建築土木資材事業部

工場操業当初からの製品である建築・住宅用高性能断熱材のミラフォームは、1985年に日本工業規格（JIS）表示許可を取得しました。また1990年の北海道通商産業局長賞の受賞や、1997年の工業技術院長賞の受賞など、品質管理に対して歴代の工場長が定期的に目標を掲げ社員教育を積極的に行ってきました。また、工場全体に関係することですが、2009年にはISO9001、14001を認証取得しました。これまでの品質管理に加え環境面においても、お客さまや時代のニーズに応えられる生産活動に取り組んでいます。

北海道工場

生活産業資材事業部

ミラフォーム稼働の翌年の1981年に、精肉や鮮魚など食品用包材として使われているスチレンペーパー（PSP）の生産が、さらに1987年からは折り箱や広告・ディスプレイ用に使われているミラボードの生産が開始されました。そして2001年には、スチレンペーパーに色や柄のついた薄いシートを密着させる熱ラミ設備が導入され、スチレンペーパーの生産体制が強化されました。これにより顧客のニーズや時代に合った食品容器素材の供給が可能となりました。また2000年からは、主に食品用包装材の販売を行なっている関連会社の㈱ザンパック物流センターが同居し、保管管理・デリバリー業務も行っています。

工場正門

バイオマス発泡素材を活用した未来の自動車用ドアを開発

JSPは、2010年7月14日～16日にパシフィコ横浜で開催されました「EVEX電気自動車技術展」に、全事業部の開発部が中心となって出展を行いました。その際に初めてお披露目したのが表題のバイオマス発泡素材を活用した自動車用ドア（図1）です。このドアパネルの特徴は①現行の金属ドアパネルと比較して大幅な軽量化が可能（図2：今回は40％の軽量化にしましたが、更に軽くも強くもできます。）②再生可能原料（植物由来原料）の構成比率が最大80％に設定可能③特に小ロット生産の車型に対応しやすい　などがあります。構造は図3のとおり、JSPの発泡芯材をFRP樹脂（繊維で強化したプラスチック）で包んでいます。以前から発泡体をFRPで挟んだサンドイッチパネルにすれば軽くて丈夫なパネルになり、金属の代替にもなることがわかっていましたが、中の発泡芯材は厳正な選択が必要だという問題がありました。第一に発泡芯材はFRPと良く接着しなければいけません。そして発泡芯材はFRPに溶けてはいけません。実はこの両方の特性を充足するのは簡単ではなく、従来の発泡素材であるポリスチレン（PS）やポリエチレン（PE）、ポリプロピレン（PP）では達成できませんでした。JSPでは問題解決の手段に取り組んでいく中で、開発途上のポリ乳酸を原料とするビーズ発泡体（EPLAs［仮称］）がFRPと強固に

図1　ドアパネル試作品

接着し、しかも不溶性であること、また、ビーズ法による成型のため好みの形状にすることが可能であるという、非常にすばらしい芯材として使用できることがわかりました。更にJSPのEPLAsの製造法は他社と比較しても素材の能力を引き出す発泡方法なので、耐熱性に優れており自動車の塗装温度にも耐えるだろうと推測することができます。実はこのような特性のFRP芯材は今までなかったこともわかりました。

そこで、EPLAsの特性を活かしたシーズ用途を見渡すと、身近な自動車産業でEU法規※、CAFÉ規制※※を起因とする軽量化が問題となっているので、先ずは自動車ドアで部品としての可能性を探ることとしました。自動車部品として最も難しいのが外装部材で、その中でもとりわけ難しいのがドアパネルです。そこに敢えて挑戦してみました。ドアパネルができれば、他の外装部材は比較的容易であろうと考えたからです。

出展の結果は好評であります。多くの新聞雑誌にも取り上げて頂き、更には大手の自動車メーカー様からも問い合わせを頂戴しております。まだ開発の域を出てはおりませんが、外装部材として根付かせるために有力なビジネスパートナーと提携して開発を加速し、将来の柱となるような製品に育てていきたいと取り組んでいます。

※EU法規：EU議会採択の法規。炭酸ガス排出量の規制。新たに販売した車は基準以下の炭酸ガス排出に抑制される義務があり、オーバーした場合は相当額の罰金が自動車メーカーに課せられるもの。

※※CAFÉ規制：米国法規。モデル別燃費を新車販売台数で加重平均した燃費を、自動車メーカー単位で規制するもの。

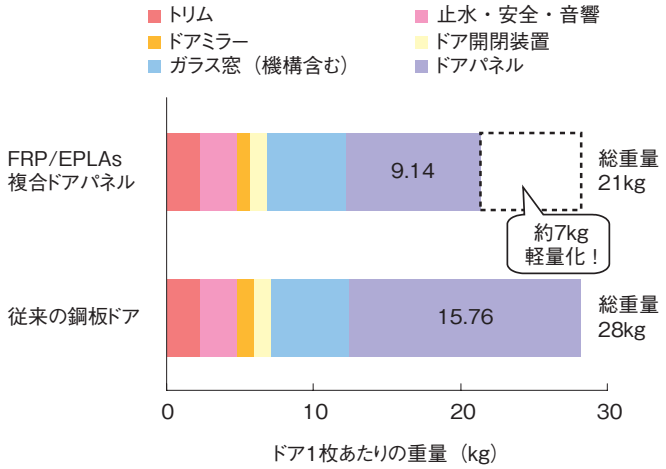


図2　試作ドアと従来ドアとの重量比較

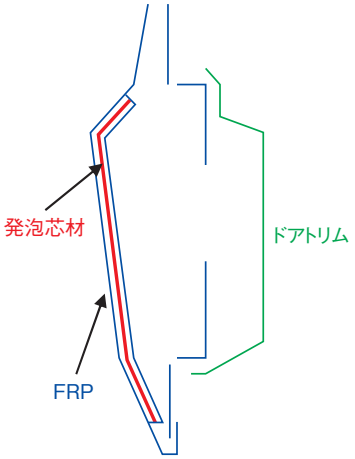
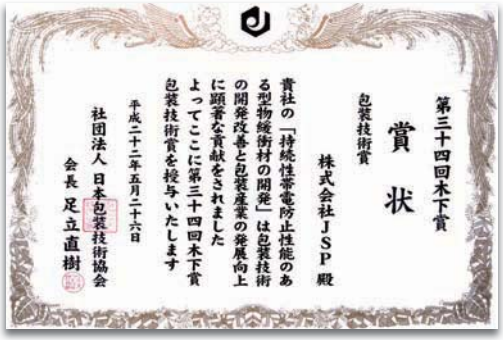


図3　FRP/EPLAs複合パネルを用いたドアパネル（側断面図）

ピーブロックエースが木下賞を受賞

ピーブロックエースは、自動車のバンパーコア材や家電の輸送緩衝材などに使用されている高い緩衝性をもつこれまでのピーブロックに、新たに持続性帯電防止機能を付与し、昨年、新製品として上市・販売を開始しておりますが、このたび第34回（平成22年度）木下賞　包装技術賞を受賞いたしました。


第三十四回木下賞
賞状
包装技術賞
株式会社ＪＳＰ殿
貴社の「持続性帯電防止性能のある型物緩衝材の開発」は包装技術の開発改善と包装産業の発展向上に顕著な貢献をされました
よってここに第三十四回木下賞包装技術賞を授与いたします
平成二十二年五月二十六日
社団法人 日本包装技術協会
会長 足立直樹

木下賞　包装技術賞受賞

■木下賞とは

木下賞は、社団法人日本包装技術協会第二代会長　故　木下又三郎氏の包装界に対する多年の功績を記念して創設された表彰事業です。本賞は、毎年その年度において　1.包装の研究・開発に顕著な業績をあげたもの　2.包装の改善・合理化に顕著な業績をあげたもの　3.包装の新規分野創出に顕著な業績をあげたもの　に対して授与される、栄誉ある賞です。

ピーブロックエース

■ピーブロックエース：持続性帯電防止発泡体

ピーブロックエースは発泡ポリプロピレンビーズの表面に持続性帯電防止樹脂を特殊な技術でコーティングし、これまで主流だった高価な帯電防止樹脂の使用を極力抑えたJSPの新たな戦略製品です。主な特徴は

- 低湿度環境でも帯電防止性能が変化しにくい
- 水で洗浄しても帯電防止性能が変化しにくい
- 帯電防止剤が製品に移行しづらい
- 自動車のバンパーコア材にも使用されているピーブロックと同等の強度を有する

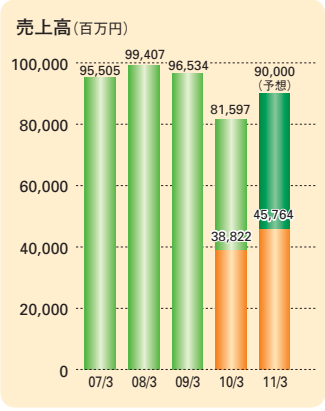
などが挙げられます。

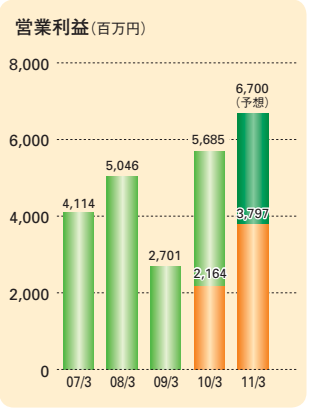
ピーブロックエースは高い緩衝性、帯電防止機能で製品をしっかり守ります。しかも低コストを実現。優れたリサイクル性も兼ね備えた、まさに次世代の発泡緩衝材です。主な用途は、液晶テレビガラス画面の搬送ボックスやカーナビ製品の輸送緩衝材ですが、今後他の分野でも活用が期待されています。

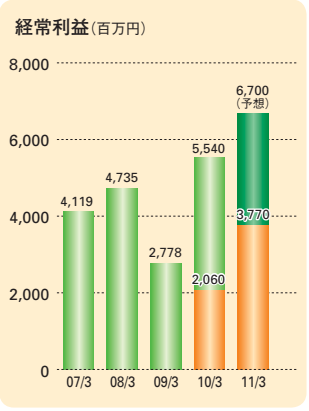
連結財務ハイライト

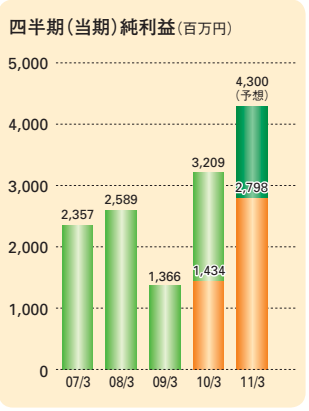
Consolidated Financial Highlights

（単位：百万円）	2007/3	2008/3	2009/3	2009/9	2010/3	2010/9
売上高	95,505	99,407	96,534	38,822	81,597	45,764
営業利益	4,114	5,046	2,701	2,164	5,685	3,797
経常利益	4,119	4,735	2,778	2,060	5,540	3,770
四半期（当期）純利益	2,357	2,589	1,366	1,434	3,209	2,798
純資産	45,989	48,057	42,001	44,654	45,912	45,710
総資産	95,178	94,993	84,316	84,887	86,197	84,141
（単位：%）						
売上高営業利益率	4.3	5.1	2.8	5.6	7.0	8.3
売上高経常利益率	4.3	4.8	2.9	5.3	6.8	8.2
売上高四半期（当期）純利益率	2.5	2.6	1.4	3.7	3.9	6.1
（単位：円）						
1株当たり四半期（当期）純利益	75.76	82.74	43.74	46.20	103.35	91.06
1株当たり純資産	1,376.68	1,425.83	1,278.38	1,355.39	1,391.92	1,444.38
（単位：百万円）						
設備投資	7,923	5,743	4,371	1,912	3,203	1,748
減価償却費	4,566	4,950	5,069	2,226	4,688	2,248







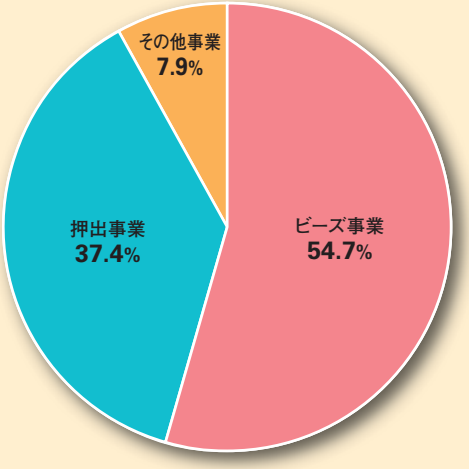


第2四半期累計　通期

連結セグメント情報

Consolidated Segment Information

事業別売上高構成比

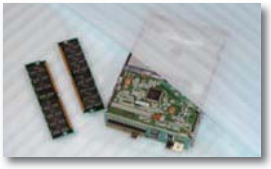


押出事業

押出事業は、当社グループ売上高の37.4%を占めています。

産業用包材の発泡ポリエチレンシート「ミラマット」は、主力である永久帯電防止機能製品の需要が好調に推移したのに加え、猛暑による保冷用途での需要もあり、売上を伸ばしました。食品用包材の発泡ポリスチレンシート「スチレンペーパー」は、主要顧客からの需要環境が厳しい状態が続き、前年同四半期に比べ売上が伸び悩みました。広告用ディスプレー材や折材の発泡ポリスチレンシート「ミラボード」の売上は、ほぼ前年同四半期並みに推移しました。また、発泡ポリスチレン押出ボードの住宅用断熱材「ミラフォーム」は、エコ住宅向け補助金の後押しもあり好調を維持し、売上が増加しました。トラックの積載品を保護するための緩衝材や家電・自動車用部品の通い函に使用されている発泡ポリエチレン押出ボードの「ミラプランク」は、需要増を受け売上が増加しました。

これらの結果、押出事業の売上高は17,119百万円、営業利益は1,301百万円となりました。

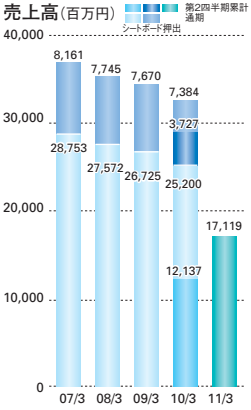


ミラマットA(永久帯電防止機能付き産業用包装材)

ミラフォーム(外張断熱工法)

※2010年4月より、これまでのシート事業およびボード事業を統合し、押出事業としております。

同事業の売上高の推移



ビーズ事業

ビーズ事業は、当社グループ売上高の54.7%を占めています。

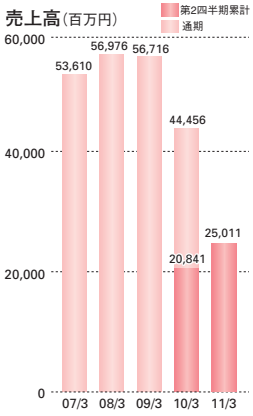
発泡ポリプロピレン「ピーブロック」は、バンパーコア材、内装材、新用途のシートコア材等の自動車部品のほか、IT製品輸送用通い函、家電製品用緩衝材、競技用グラウンド基礎緩衝材等に用いられており、日本及び海外の各地域で製造販売を行っております。世界的な景気後退の影響が残った前年同四半期に比べ、中国を中心としたアジア各地域の旺盛な需要や、アメリカ・ヨーロッパにおける家電用包装材・自動車資材の需要が回復基調で推移していることなどにより、売上・利益ともに増加しました。また、発泡性ポリスチレン「スチロダイア」は、魚箱用途で一部に不漁の影響を受けたものの、家電包材用途での猛暑によるエアコン・冷蔵庫等の需要増もあり、売上はほぼ前年同四半期並みに推移しました。

これらの結果、ビーズ事業の売上高は25,011百万円、営業利益は2,589百万円となりました。

ピーブロック
（自動車用バンパー芯材）

スチロダイア（保温・保冷容器）

同事業の売上高の推移



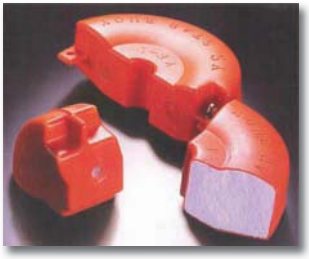
その他事業

その他事業は、当社グループ売上高の7.9%を占めています。

ユニットバス天井材「スーパーブロー」は、需要が回復しつつあり、前年同四半期に比べ販売数量が増加しました。自動車エアコン用ダクトに使用されているハイブリッド成形品「スーパーフォーム」は、需要減により販売数量・売上ともに減少しました。また、一般包材の売上は増加しました。

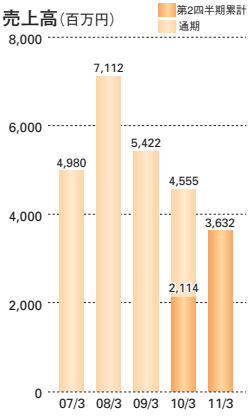
これらの結果、その他の売上高は3,632百万円、営業損失は43百万円となりました。

スーパーフォーム
（自動車室内用エアコンダクト）



スーパーブロー＜外皮（無発泡層）、内部発泡層一体成形品＞

同事業の売上高の推移



要約連結財務諸表

Summary of Consolidated Finalcial Statements

要約四半期連結貸借対照表

（単位：百万円）

（資産の部）	当第2四半期 2010年9月30日現在	前第2四半期 2009年9月30日現在	前年同期比 増減額
❶ 流動資産	46,680	43,995	2,685
現金及び預金	9,055	9,601	△ 545
受取手形及び売掛金	27,042	24,424	2,617
有価証券	195	7	188
たな卸資産	7,933	7,599	333
その他	2,689	2,553	136
貸倒引当金	△ 235	△ 191	△ 44
❷ 固定資産	37,460	40,892	△ 3,431
有形固定資産	33,688	36,551	△ 2,863
建物及び構築物	11,275	12,427	△ 1,152
機械装置及び運搬具	9,379	10,569	△ 1,189
土地	11,625	11,620	5
その他	1,407	1,935	△ 527
無形固定資産	844	1,037	△ 192
投資その他の資産	2,927	3,303	△ 375
投資有価証券	1,670	1,884	△ 214
その他	1,301	1,467	△ 166
貸倒引当金	△ 43	△ 49	5
資産合計	84,141	84,887	△ 746

注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

（負債の部）	当第2四半期 2010年9月30日現在	前第2四半期 2009年9月30日現在	前年同期比 増減額
流動負債	27,818	28,850	△ 1,032
支払手形及び買掛金	9,471	9,014	457
短期借入金	6,860	8,765	△ 1,905
1年内返済予定の長期借入金	4,292	4,503	△ 210
1年内償還予定の社債	—	273	△ 273
その他	7,194	6,294	899
❸ 固定負債	10,612	11,382	△ 769
長期借入金	9,122	9,566	△ 444
その他	1,490	1,816	△ 325
負債合計	38,431	40,232	△ 1,801
（純資産の部）			
株主資本	49,002	46,088	2,913
資本金	10,128	10,128	—
資本剰余金	13,405	13,405	—
利益剰余金	26,839	22,765	4,073
自己株式	△ 1,370	△ 211	△ 1,159
評価・換算差額等	△ 5,935	△ 4,001	△ 1,934
その他有価証券評価差額金	18	221	△ 202
為替換算調整勘定	△ 5,954	△ 4,222	△ 1,732
少数株主持分	2,643	2,566	76
❹ 純資産合計	45,710	44,654	1,055
負債及び純資産合計	84,141	84,887	△ 746

注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

❶流動資産
流動資産は、前年同期比2,685百万円増の46,680百万円となりました。主な要因といたしましては、現金及び預金が545百万円減少、受取手形及び売掛金が2,617百万円増加したこと等によるものです。

❷固定資産
固定資産は、前年同期比3,431百万円減の37,460百万円となりました。主な要因としましては、有形固定資産が2,863百万円減少したこと等によるものです。

❸固定負債
固定負債は、前年同期比769百万円減の10,612百万円となりました。主な要因としましては、長期借入金が444百万円減少したこと等によるものです。

❹純資産及び自己資本比率
純資産は、前年同期比1,055百万円増の45,710百万円となりました。また、自己資本比率は51.2%となりました。

要約四半期連結損益計算書（累計）

（単位：百万円）

	当第2四半期 2010年4月1日から 2010年9月30日まで	前第2四半期 2009年4月1日から 2009年9月30日まで	前年同期比 増減額
❺ 売上高	45,764	38,822	6,942
売上原価	31,997	27,278	4,719
売上総利益	13,767	11,544	2,223
販売費及び一般管理費	9,969	9,379	590
❻ 営業利益	3,797	2,164	1,632
営業外収益	258	307	△ 49
営業外費用	285	411	△ 126
❻ 経常利益	3,770	2,060	1,709
特別利益	404	28	375
特別損失	117	108	8
税金等調整前四半期純利益	4,057	1,980	2,076
法人税等	1,070	383	686
少数株主利益	189	162	26
❻ 四半期純利益	2,798	1,434	1,363

注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

❺売上高
付加価値の高い発泡樹脂製品の販売に注力するとともに、家電製品に対するエコポイント、エコカーに対する補助金等の追い風を受け、包装材・機能材の需要が引き続き堅調に推移したことにより、当第2四半期連結累計期間の連結売上高は45,764百万円（前年同期比17.9%増）となりました。

❻営業利益、経常利益、四半期純利益
製造経費の抑制など全社を挙げて取り組んだコストの低減が一段と進展したことにより、営業利益は3,797百万円（前年同期比75.4%増）、経常利益は3,770百万円（同83.0%増）、四半期純利益は2,798百万円（同95.0%増）となりました。

四半期連結キャッシュ・フローの状況（累計）

（単位：百万円）

	当第2四半期 2010年4月1日から 2010年9月30日まで	前第2四半期 2009年4月1日から 2009年9月30日まで	前年同期比 増減額
❼ 営業活動によるキャッシュ・フロー	1,986	5,054	△ 3,068
❽ 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,744	△ 2,078	333
❾ 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,479	△ 2,620	141
現金及び現金同等物四半期末残高	6,488	7,119	△ 630

注）記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

❼営業活動によるキャッシュ・フロー
収入要因であります税金等調整前四半期純利益4,057百万円、減価償却費2,248百万円、仕入債務の増加419百万円に対し、法人税等の支払額1,847百万円、売上債権の増加2,551百万円などで、当第2四半期連結累計期間の営業活動によるキャッシュ・フローは、差引き1,986百万円の収入（前年同期比3,068百万円減少）となりました。

❽投資活動によるキャッシュ・フロー
投資有価証券の売却による収入395百万円、固定資産の取得による支出1,748百万円、関係会社株式の取得による支出300百万円などで、当第2四半期連結累計期間の投資活動によるキャッシュ・フローは、差引1,744百万円の支出（前年同期比333百万円減少）となりました。

❾財務活動によるキャッシュ・フロー
長期借入れによる収入1,300百万円、短期借入金の純増による収入498百万円、長期借入金の返済による支出2,443百万円、自己株式の取得に支出1,159百万円などにより、当第2四半期連結累計期間の財務活動によるキャッシュ・フローは、差引2,479百万円の支出（前年同期比141百万円減少）となりました。

6
June

ピーブロックエースが木下賞を受賞

当社製品の持続性帯電防止型内発泡ポリプロピレン「ピーブロックエース」が、『第34回木下賞　包装技術賞』を受賞いたしました。

「インド共和国における海外子会社設立に関するお知らせ」を発表

6月14日、近年多くの大手自動車メーカーと部品メーカーが進出し生産体制の整備が進められているインド共和国に、衝撃緩衝用バンパーコア材や内装材等の自動車部品のほか、IT製品輸送用通い函、家電製品用緩衝材等に幅広く用いられている発泡ポリプロピレン「ピーブロック」の生産拠点として子会社を設立することを発表いたしました。

＜新会社の概要＞

⑴商号	JSP Foam India Pvt. Ltd.
⑵代表者	鈴木幸夫（当社100％子会社 JSP Foam Products社長）
⑶所在地	Mahindra World City, Natham Sub（PO）,Chengalpet Taluk, Kancheepuram District, Tamil Nadu, India
⑷設立年月日	2010年7月中旬
⑸資本金	100百万ルピー（約196百万円）
⑹出資比率	当社50％、KOSPA Corporation（韓国、当社50％子会社）25％、JSP Foam Products Pte.Ltd.（シンガポール、当社100％子会社）25％
⑺主な事業内容	発泡ポリプロピレンの製造及び販売

「中国広東省発泡ポリプロピレン製造子会社の生産能力増強について」を発表

6月21日、現在、中国国内2拠点で生産を行なっている発泡ポリプロピレン「ピーブロック」について、近年の中国経済の目覚しい発展により需要が急拡大していることを受け、中国全体での生産能力拡大をはかることが不可欠であるとし、広東省にある子会社JSP Plastics（Dongguan）Co.,Ltd. の生産能力を増強することを発表いたしました。

⑴子会社名	JSP Plastics（Dongguan）Co.,Ltd.
⑵所在地	中華人民共和国広東省東莞市
⑶生産品目	発泡ポリプロピレン「ピーブロック」
⑷投資額	約7億円
⑸完成予定日	平成23年12月
⑹生産能力増強後の中国全体の生産能力	14,000トン

「ロシア発泡ポリプロピレン販売会社設立について」を発表

6月25日、将来のロシアにおける自動車販売台数増加に伴う自動車関連部品の需要増加や当社の将来の発展のため、ロシアのモスクワに発泡ポリプロピレン「ピーブロック」の販売子会社JSP International o.o.o.を設立したことを発表いたしました。

⑴会社名	JSP International o.o.o.
⑵所在地	ロシア モスクワ
⑶資本金	200,000ルーブル
⑷設立年月	平成22年4月
⑸出資比率	JSP International S.A.R.L.（当社100％子会社、フランス）100％
⑹販売品目	発泡ポリプロピレン「ピーブロック」

7
July

「電気自動車開発技術展2010」に出展

7月14日～16日の3日間、横浜市西区のパシフィコ横浜で開催された「電気自動車開発技術展（EVEX）2010」に出展いたしました。多くの来場者にブースを見学いただき、大変盛況でした。

「業績予想の修正に関するお知らせ」を発表

7月29日、欧米、アジアの景気回復が当初予想を上回り、衝撃緩衝用バンパーコア材や内装材等の自動車部品のほか、IT製品輸送用通い函や家電製品用緩衝材、競技用グラウンド基礎緩衝材用途の発泡ポリプロピレン「ピーブロック」の販売が好調に推移し、売上、利益共に平成22年4月29日公表の予想を上回る見込みとなったため、修正を発表いたしました。

1. 平成23年3月期第2四半期累計期間連結業績予想値の修正（平成22年4月1日～平成22年9月30日）

（単位：百万円）	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
前回発表予想	41,500	2,100	2,100	1,400
今回発表予想	45,000	3,100	3,000	2,200
参考：前期第2四半期実績（平成22年3月期第2四半期）	38,822	2,164	2,060	1,434

2. 平成23年3月期通期連結業績予想値の修正（平成22年4月1日～平成23年3月31日）

（単位：百万円）	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
前回発表予想	83,000	4,300	4,400	2,800
今回発表予想	90,000	6,000	6,100	4,000
参考：前期実績（平成22年3月期）	81,597	5,685	5,540	3,209

「平成23年3月期第1四半期決算短信」を発表

7月29日、東京証券取引所に平成23年3月期第1四半期決算を報告し、対外発表いたしました。

8
August

「自己株式の取得及び自己株式立会外買付取引（ToSTNeT-3）による自己株式の買付けに関するお知らせ」を発表

8月9日、会社法第165条3項の規程により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式を取得すること及びその具体的な方法について発表いたしました。

1.自己株式の取得を行なう理由	経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため
2.取得の方法	平成22年8月9日の終値（939円）で、平成22年8月10日午前8時45分の東京証券取引所の自己株式立会外買付取引（ToSTNeT-3）において買付けの委託を行なう。当該買付注文は当該取引時間限りの注文とする。
3.取得の内容	(1)取得する株式の種類　当社普通株式 (2)取得する株式の総数　1,300,000株（上限） (3)株式の取得価額の総額　1,220,700,000円（上限） (4)取得結果の公表　午前8時45分の取引終了後

「自己株式立会外買付取引（ToSTNeT-3）による自己株式の取得結果および自己株式取得終了に関するお知らせ」を発表

8月10日、前日（8月9日）にお知らせした自己株式の取得につき、実施したことをお知らせするとともに、この買付けをもって取得を終了したことを発表いたしました。

1.取得の理由	経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため
2.取得の内容	(1)取得対照株式の種類　当社普通株式 (2)取得した株式の総数　1,234,200株 (3)取得価額　1,158,913,800円 (4)取得日　平成22年8月10日 (5)取得方法　東京証券取引所の自己株式立会外買付取引（ToSTNeT-3）による買付け

9
September

9月30日　平成23年3月期　第2四半期　決算日

資本金の変更（平成22年9月30日現在）

資本金	10,128百万円＜増加なし＞
前回報告（平成22年3月末）	10,128百万円
発行済株式総数	31,413,473株

10 October

「環境報告書2009」を発行

10月22日、昨年度に当社が取組んだ環境保全活動に関する報告書を発行いたしました。当社の事業活動における環境負荷の状況と、各事業所の環境保全・改善のための具体的な活動について報告しております。

「平成22年3月期　第2四半期決算短信」を発表

10月28日、東京証券取引所に平成23年3月期　第2四半期決算の報告を行い、対外発表いたしました。

「剰余金の配当（中間配当）及び配当予想の修正に関するお知らせ」を発表

10月28日、当社は当第2四半期累計期間の連結業績及び通期の連結業績見込みを踏まえ、株主の皆様のご支援にお答えするため、平成22年9月30日を基準日とする当第2四半期末の1株当たり配当金を、前期実績の7円に8円を加えた15円に、また期末の1株当たり配当予想についても前回予想の7円に8円を加えた15円に修正することを発表いたしました。従いまして1株当たり年間配当金は30円（中間15円、期末15円）となる予定です。

1. 配当の内容

	決　定　額	直近の配当予想 （平成22年4月30日公表）	前期実績
基準日	平成22年9月30日	同左	平成21年9月30日
1株当たり配当金	15円00銭	7円00銭	7円00銭
効力発生日	平成22年12月1日	―	平成21年12月1日

2. 平成23年3月期配当予想修正の内容

	1株当たり配当金		
基準日	第2四半期末	期末	年間
前回予想（平成22年4月30日公表）	7円00銭	7円00銭	14円00銭
今回修正予想		15円00銭	30円00銭
当期実績	15円00銭		
前期実績（平成22年3月期）	7円00銭	12円00銭 （普通配当7円00銭） （記念配当5円00銭）	19円00銭

11 November

第2四半期決算説明会

11月9日、如水会館においてアナリスト・ファンドマネージャーに対し、平成23年3月期　第2四半期決算の説明会を開催いたしました。

【今後の予定】

2011年　1月下旬　平成23年3月期　第3四半期　決算発表予定

会社情報（2010年9月30日現在）

Corporate Data

会社概要

商号	株式会社JSP
所在地	本社　東京都千代田区丸の内三丁目4番2号
事業内容	発泡プラスチック、 その他合成樹脂製品の製造販売および輸出、 土木・建築工事の設計・請負および管理
設立	1962年（昭和37年）1月
資本金	101億2,800万円
決算期	3月
従業員数	680名（男566名・女114名）出向者除く 連結2,150名（国内1,237名・海外913名）
事業所他	6営業所、11工場、2研究所
主要関連企業	国内11社、海外23社

大株主

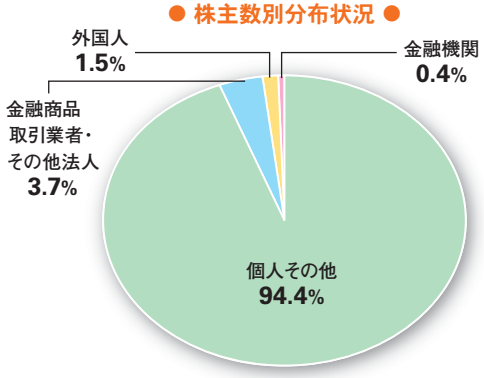
株主名	株数（千株）
三菱瓦斯化学株式会社	13,212
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	2,425
ザ チェース マンハッタン バンク エヌエイ ロンドン エス エル オムニバス アカウント	1,179
JSP取引先持株会	1,073
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	989
JSP従業員持株会	482
野村信託銀行株式会社	363
資産管理サービス信託銀行株式会社	358
シービーエヌワイデイエフエイインターナショナル キャップバリューポートフォリオ	330
日本生命保険相互会社	301

※当社は自己株式1,596千株を保有しておりますが、上記の大株主からは除外しております。

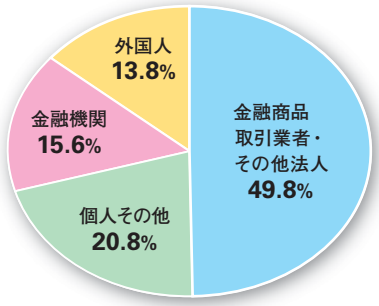
株式の状況

発行可能株式総数	46,000,000株
発行済株式の総数	31,413,473株
株主数	7,792名

● 株主数別分布状況 ●



● 株式数別分布状況 ●



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711（通話料無料）
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.co-jsp.co.jp/ir/index.html （ただし、電子公告によることが出来ない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、東京都において発行する日本経済新聞に公告いたします。）

（ご注意）
1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

● 次回アンケート実施のお知らせ ●

昨年の春号（2009年65号）にて実施後、休止させていただいておりました株主様へのアンケートを、次号のJSPニュースにて実施を予定いたしております。

詳しい内容につきましては、次号の発行をお待ちいただくことになりますが、皆様からの貴重なご意見を伺うことのできる機会であり、またそれを今後の事業運営・経営に役立ててまいりたいと考えております。

多くの株主の皆様からのご回答をお願い申し上げます。

ロゴマークの紹介

2003年の三菱化学フォームプラスティック㈱との合併を機に、㈱JSPおよびグループ各社は新しいシンボルとなるロゴマークを制定し、あらゆる場面で発信しております。

力強く安定感のある3つの「文字」は、過去から築き上げてきたものに様々な工夫を重ね、未来へと確実に継承していく企業姿勢を表しています。

また下の2つの「エレメント」は、湧き上がる無限の可能性と世界へのさらなる広がりを表すとともに、鋭い知性と優しい感性で社会に貢献しようと願う決意を表現しています。「コーポレートカラー」のJSPブルーは、若々しさや変革にチャレンジする先進性と、地球の自然・環境と共生しながら人々と広く手を繋ぎ、明るい未来社会を拓かんとする私たちのポリシーを表現しています。

ヘラクレスの像のある凱旋門

トルコ　エフェソス遺跡　世界遺産

撮影・文
清 水　準 一（写真家）

2世紀中期に建てられたケルスス図書館の前門

トルコに世界遺産は9ヵ所ありますが、ここエフェソスは最大の歴史的遺跡で歴史の宝庫だと思います。

表紙の写真は遺跡のほぼ中心部から遠景にケルスス図書館を入れて撮りました。エフェソスの歴史はながく、B.C.（紀元前）2000年までさかのぼれます。B.C.356年、神殿など主要な部分が火災で焼失しましたが、アレクサンドロス大王がそれまでこの地を支配していたペルシャから開放して、現在残されている遺跡の基を築き、今日の形を形成したそうです。3世紀に入りゴート人の侵入が始まると、この地域の他の都市はかなりの勢いで衰退したようですが、この地の衰退の原因はマラリアらしく、15世紀には人口も激減したそうです。現在、往時の姿を偲べる形を残しているのは「図書館」「トラヤヌスの泉」「ハドリアヌス神殿」「オデイオン」「野外劇場」など多くはありませんが、ローマ時代の高級住宅跡のモザイクなど見所は多いと思います。

私が撮影に訪れた時は「アントニゥスとクレオパトラ」のエピソードまでは聞きましたが、NHKスペシャル「クレオパトラ妹の墓が語る悲劇」（2009年7月12日放映）を見て驚きました。この地に姉クレオパトラと激しく権力争いした妹のアルシノエの墓があったのです。発見のきっかけは八角形の礎石だそうで、そこから発見された骨は高貴な方のものであろうと推察され「ユダヤ古代誌」などの文献により、抗争の実態が明確になったようです。墓に残された骨は頭部が失われていましたが、この謎も見事に解明されました。頭蓋骨は、1929年ドイツ人により盗掘されていたのだそうです。実物は現在も行方不明だそうですが、写真と詳細なデータは残っていましたので見事に復元されました。番組も昔見たエリザベス・テイラー主演の映画「クレオパトラ」の名場面をたっぷり使って往時の再現がされて、なかなかのものでした。

それにしてもトルコの遺跡にはハプニングが多いと思います。「ペルガモン遺跡」※1の発見は大理石の再利用地にすぎなかった地域での、ドイツ人鉄道技師カール・フーマンの好奇心からのスタートですし、シュリーマン※2の黄金の首飾りも氏の「ホメロスの叙事詩」を歴史的記実と思いこんだ盲信からだそうですが、トルコは夢の多い国ですね。

※1　「ペルガモン遺跡」
ペルガモン遺跡は、トルコ共和国の西側（現ベルガモ）に位置し、エフェソスと共に繁栄した古代都市の遺跡。なかでもアクロポリスの丘にある大劇場や神殿、図書館などの歴史的建造物が建ち並ぶ遺跡群は有名な観光地。遺跡の一つ「ゼウスの大祭壇」は当時の壁面彫刻などを使い、ベルリンのペルガモン博物館内に復元・展示されている。

※2　シュリーマン
ハインリッヒ・シュリーマン（1822年－1890年）。ドイツの考古学者、実業家。「ホメロスの叙事詩　イーリアス」に登場するトロイア（トロイ）は実在すると信じ、遺跡発掘に打ち込んだ。1873年、プリアモスの黄金とともにトロイアが実在したことを発見した。

Network

本社・事業所一覧

本　社			☎
	〒100-0005	東京都千代田区丸の内3-4-2（新日石ビル）	03-6212-6300
営業所			
札幌	〒060-0003	札幌市中央区北3条西1-1（サンメモリアビル）	011-231-2681
仙台	〒984-0817	仙台市若林区堰場12-5（ソレアード舟丁）	022-262-3271
名古屋	〒460-0003	名古屋市中区錦3-4-6（桜通大津第一生命ビル）	052-962-3225
大阪	〒541-0053	大阪市中央区本町1-6-16（野村不動産堺筋本町ビル）	06-6264-7900
福岡	〒812-0013	福岡市博多区博多駅東1-12-17（五幸ビル）	092-411-6854
出張所			
広島	〒732-0052	広島市東区光町1-12-20（もみじ広島光町ビル）	082-568-0566
工　場			
北海道	〒067-0051	北海道江別市工栄町23-4	011-384-1621
鹿沼第一	〒322-8511	栃木県鹿沼市さつき町17	0289-76-2211
鹿沼第二	〒322-0014	栃木県鹿沼市さつき町5	0289-76-3271
鹿沼第三	〒322-0014	栃木県鹿沼市さつき町10-2	0289-76-5905
鹿沼第四	〒322-0026	栃木県鹿沼市茂呂2626-4	0289-60-3305
鹿沼第五	〒322-0014	栃木県鹿沼市さつき町6-1	0289-76-3211
鹿沼物流センター	〒322-0014	栃木県鹿沼市さつき町13-1	0289-76-2121
鹿島	〒314-0103	茨城県神栖市東深芝16-3	0299-93-4111
四日市第一	〒510-0881	三重県四日市市大字六呂見653-2	059-345-1220
四日市第二	〒510-0955	三重県四日市市北小松町扇廣1600	059-328-2563
関西	〒679-4304	兵庫県たつの市新宮町下笹515	0791-77-0213
九州	〒861-0111	熊本県熊本市植木町宮原553	096-274-7101
研究所			
鹿沼	〒322-0014	栃木県鹿沼市さつき町10-3	0289-76-1600
四日市	〒510-0881	三重県四日市市大字六呂見653-2	059-345-1245

海　外

北　米	アジア
JSP International, LLC.（アメリカ）	JSP Foam Products, PTE. Ltd.（シンガポール）
JSP International de Mexico, S.A. de C.V.（メキシコ）	Taiwan JSP Chemical Co., Ltd.（台湾）
	KOSPA Corporation（韓国）
欧　州	JSP Plastics (Wuxi) Co., Ltd.（中国）
JSP International SARL（フランス）	JSP International Trading (Shanghai) Co., Ltd.（中国）
JSP International GmbH & Co.KG（ドイツ）	Kunshan JSP Seihoku Packaging Material Co., Ltd.（中国）
JSP International s.r.o.（チェコ）	JSP Plastics (Dongguan) Co., Ltd.（中国）
JSP International o.o.o.（ロシア）	JSP Foam India Pvt. Ltd.（インド）

JSP

発行　**株式会社 JSP**

東京都千代田区丸の内三丁目4番2号新日石ビル

IR室　TEL.03-6212-6306　FAX.03-6212-6302

ホームページ　http://www.co-jsp.co.jp

VEGETABLE OIL INK

R70 古紙配合率70%再生紙を使用しています